

社会福学科 社会福祉専攻 1年 前期 専門科目

1. 医学概論
2. 社会学と社会システム
3. 心理学と心理的支援
4. ソーシャルワークの基盤と専門職 I
5. ソーシャルワークの基盤と専門職 II
6. 高齢者福祉
7. 障害者福祉
8. 児童・家庭福祉
9. ソーシャルワーク演習 I
10. ソーシャルワーク実習指導 I
11. 生活支援技術
12. 心理学研究法
13. 心理学統計法

社会福祉学科

社会福祉専攻

科目名: 医学概論			担当教員 氏名: 太田 雅也		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修) 保健医療ソーシャルワーカー受験資格
授業科目の学習教育目標の概要: ①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②人の身体構造と心身機能について理解する。 ③健康・疾病の捉え方について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策					キーワード
授業における学修の到達目標					人の成長と発達、老化、人体の構造と疾病、健康の概念、リハビリテーション、国際機能分類(ICF)
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9.	
A 知識・理解力	人体の構造と機能及び疾病と障害について体系的に理解し、知識を身に付ける。				
C 論理的思考力	知識を複眼的・論理的に分析し、表現できる。				
D 問題解決力	問題を固定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決する。				
G 倫理観	医学的倫理を知り、それに従って行動する。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 100 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %	
特記事項:					
アクティブラーニング要素: (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時にテストを実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜小テストを行い、採点し返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①人の成長・発達と老化(身体の成長・発達、精神の成長・発達、老化)			【予習】第1・2章を読む	【予習】60分	
			【復習】第1・2章をノートでまとめる	【復習】60分	
②身体構造と心身の機能(1)(人体部位の名称、四肢)			【予習】第3章を読む	【予習】60分	
			【復習】第3章をノートでまとめる	【復習】60分	
③身体構造と心身の機能(2)(心臓、腎臓、呼吸器)			【予習】第3章を読む	【予習】60分	
			【復習】第3章をノートでまとめる	【復習】60分	
④身体構造と心身の機能(3)(消化器、神経、体の調節)			【予習】第3章を読む	【予習】60分	
			【復習】第3章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑤疾病の概要(1)(悪性腫瘍、脳血管障害、心疾患)			【予習】第6章を読む	【予習】60分	
			【復習】第6章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑥疾病の概要(2)(生活習慣病、呼吸器疾患、消化器疾患、血管疾患)			【予習】第6章を読む	【予習】60分	
			【復習】第6章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑦疾病の概要(3)(腎泌尿器疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患、感染症)			【予習】第6章を読む	【予習】60分	
			【復習】第6章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑧中間まとめ			【予習】第1、2、3、6章を読む	【予習】60分	
			【復習】第1、2、3、6章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑨疾病の概要(4)(神経疾患、先天性疾患、高齢者の疾患、終末期医療と緩和ケア)			【予習】第6章を読む	【予習】60分	
			【復習】第6章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑩障害の概要(1)(視覚障害、聴覚平衡機能障害、肢体不自由)			【予習】第4・5章を読む	【予習】60分	
			【復習】第4・5章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑪障害の概要(2)(内部障害、知的障害、発達障害、認知症、高次脳機能障害、精神障害)			【予習】第4・5章を読む	【予習】60分	
			【復習】第4・5章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑫リハビリテーションの概要 (リハビリテーションの定義、リハビリテーションの障害評価、リハビリテーションの諸段階等)			【予習】第5章を読む	【予習】60分	
			【復習】第5章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑬国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要			【予習】第2章を読む	【予習】60分	
			【復習】第2章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑭健康の概念と公衆衛生の概念(WHO憲章、公衆衛生の考え方、健康の社会的決定要因)			【予習】第7章を読む	【予習】60分	
			【復習】第7章をノートでまとめる	【復習】60分	
⑮期末まとめ			【予習】第1~7章を読む	【予習】60分	
			【復習】第1~7章をノートでまとめる	【復習】60分	
使用テキスト: 医学概論(中央法規)ISBN: 978-4-8058-8231-3			その他参考文献など: 「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 高齢者や疾病・障害を持った人に接するにあたり、医学・医療の最低限の知識を身に付ける必要があります。					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 社会学と社会システム			担当教員 氏名: 中川 翔平		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
①現代社会の特性を理解する。 ②生活の多様性について理解する。 ③人と社会の関係について理解する。 ④社会問題とその背景について理解する。					社会学、現代社会、行為と共同性、時間・空間・近代、構造化と秩序
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力		私たちが生きている社会がどのように成立しているか、その概要を理解する。			
C 論理的思考力		私たちが直面している様々な社会問題について、考え、整理をし、自分なりに問題解決に向け挑戦できる。			
G 倫理観		社会にある多様な価値観に理解を深め、自分自身のスタンスを明確にして、また、他を尊重するための基礎的な土台を身に付けてる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項:					
●その他に関しては、受講に対する姿勢や講義内での発言や課題の提出状況を含め評価する。					
●本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として講義の振り返りやグループワーク・発表を行う。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テストを行う。最終試験に関しては別に定めた日時に実施する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し、評価する。必要に応じて課題を与える。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①社会学の視点			【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
②社会構造と変動			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
③社会構造と変動1(社会システム、組織と集団)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
④社会構造と変動2(人口、グローバル化)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑤社会構造と変動3(社会変動、地域)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑥社会構造と変動4(環境)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑦市民社会と公共性1(社会的格差、社会問題)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑧市民社会と公共性2(差別と偏見)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑨市民社会と公共性3(災害と復興)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑩生活と人生1(家族とジェンダー)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑪生活と人生2(健康、労働)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑫生活と人生3(世代、ライフステージ、いじめ、ハラスメント、社会的孤立と孤独)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑬自己と他者1(相互作用、間主観性、社会的自我)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑭自己と他者2(役割取得、アイデンティティ、生涯発達)			【予習】資料で用語を調べること。 【復習】配布資料から不明点を抜き出すこと	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ			【予習】テキスト・配布資料を復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト:			その他参考文献など: 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣、2007。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本講義は社会を観察する様々な視点を勉強します。そのため、専門用語や抽象的な説明も多いです。事前準備や復習、講師への質問等を意識しましょう。また、参考資料は図書館にあります。各自協力して資料を咀嚼していきましょう。					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 心理学と心理的支援			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどの心理臨床の実務経験に基づき、精神障害の理解、心理アセスメントの技法、心理臨床の事例検討などによる授業を行っている。についても授業展開の中に盛り込んでいる。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解できる。					ストレス、感情、認知、社会、 発達、心理的支援				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6.				
A 知識・理解力			心理学の基礎知識について理解している						
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的、客観的に思考する基礎的な力を身に付けている。						
E 自己管理能力			自己について理解を深めることで自己管理能力を高める						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。クリッカーを用いた双方向型授業を行います。また第15回目は、ポスターツアーによるプレゼンテーションを行います。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 主体的に学習できるように、学習到達度について毎回フィードバックします。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な時間(分)				
①心理学とは(心理学の歴史と対象、心を探る方法の発展)			【予習復習】心理学の学問領域		30				
②動機づけと適応			【予習復習】クエス1: 動機づけ		180				
③感情・情緒			【予習復習】クエス2: 感情		180				
④感覚・知覚・認知			【予習復習】クエス3: 感覚・知覚・認知		180				
⑤学習・行動			【予習復習】クエス4: 学習		180				
⑥記憶・知能			【予習復習】クエス5: 記憶・知能		180				
⑦性格			【予習復習】クエス6: 性格		180				
⑧対人関係と集団: 社会心理			【予習復習】クエス7: 社会心理学		180				
⑨生涯発達(発達課題と発達段階、認知・言語・愛着・道徳性の発達)			【予習復習】クエス8: 発達		180				
⑩心の健康とストレス			【予習復習】クエス9: ストレス		180				
⑪精神障害・知的障害			【予習復習】クエス10: 精神障害・知的障害		180				
⑫発達障害・認知症			【予習復習】クエス11: 発達障害・認知症		180				
⑬心理学的アセスメントと心理的支援の基本的技法			【予習復習】クエス12: 心理アセスメント		180				
⑭心理療法における介入技法の概要			【予習復習】クエス13: 心理療法		180				
⑮福祉における心理的支援と心理専門職			【予習復習】ボスレベルクエス: 福祉における心理的支援		240				
使用テキスト: 指定テキストはありません。必要な参考資料は、図書館等で自ら収集してください。			その他参考文献など: 心理学事典[平凡社]; 心理学辞典[有斐閣]; 心理学辞典[丸善]; アイゼンク教授の心理学ハンドブック[ナカニシヤ出版]						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): クエスト型授業によるアクティブラーニングで学びます。履修学生同士が協働しながら、心理学の概要を楽しく学びます。学ぶことに喜びを感じるようになることが、この授業の第一の目標です。参加しないと損しますよ。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: ソーシャルワークの基盤と専門職 I			担当教員 氏名: 門田 晋			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修) 福祉心理士
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ソーシャルワークの価値を学ぶため、実践ケース等を用いて理解を深める。				
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを理解した上で、ソーシャルワークの価値や原理原則、定義等をソーシャルワークが形成された歴史的背景を踏まえながら学ぶ。講義の後半は事例を用いながらソーシャルワークの価値等を掘り下げる。					ソーシャルワークの定義、 ソーシャルワークの倫理と価値、 ソーシャルワークの形成過程	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力	歴史背景を踏まえた上で総合的かつ包括的な相談援助の理論と知識を理解することができる。					
B 専門的技術	実践現場で展開する援助技術が活用できる					
C 論理的思考力	ソーシャルワーカーが直面する問題や課題について、複眼的論理的に分析できる。					
D 問題解決力	ソーシャルワークの価値と倫理を元にして、当事者を支援することができる。					
G 倫理観	ソーシャルワークの倫理綱領を理解し、援助実践に反映できる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 80 %	発表:	%	実技試験: %	その他: 20 %
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーションを行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末レポートは別に定めた日時に実施。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートと中間と期末レポートはABCD評価で採点し返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅠ(社会福祉士及び介護福祉士)			【予習】第1章社会福祉の役割と意義の1、2、3を読む 【復習】第1章社会福祉の役割と意義の1、2、3をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
②社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅡ(精神保健福祉士)			【予習】第2章精神保健福祉士の役割と意義の1、2、3を読む 【復習】第2章精神保健福祉士の役割と意義の1、2、3をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
③社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけⅢ(社会福祉士・精神保健福祉士の専門性)			【予習】第1章社会福祉の役割と意義の4と第2章精神保健福祉士の役割と意義4を読む 【復習】第1章社会福祉の役割と意義の4と第2章精神保健福祉士の役割と意義を4レポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
④ソーシャルワークの定義(グローバル定義)			【予習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の1、2を読む 【復習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の1、2をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑤ソーシャルワークの原理Ⅰ(社会正義、人権尊重)			【予習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4を読む 【復習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑥ソーシャルワークの原理Ⅱ(集団的責任、多様性の尊重)			【予習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4を読む 【復習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑦ソーシャルワークの理念Ⅰ(当事者主権、尊厳の保持)			【予習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4を読む 【復習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑧ ソーシャルワークの理念Ⅱ(権利擁護、自立支援)			【予習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4を読む 【復習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑨ソーシャルワークの理念Ⅲ(ソーシャル・インクルージョン、ノーマライゼーション)			【予習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4を読む 【復習】第3章ソーシャルワークの概念及び基盤となる考え方の3、4をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑩ソーシャルワークの形成過程Ⅰ(慈善組織協会、セツメント運動)			【予習】第4章ソーシャルワークの形成過程の1、2を読む 【復習】第4章ソーシャルワークの形成過程の1、2をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑪ソーシャルワークの形成過程Ⅱ(医学モデルから生活モデル、ソーシャルワークへの統合化)			【予習】第4章ソーシャルワークの形成過程の3、4、5、6を読む 【復習】第4章ソーシャルワークの形成過程の3、4、5、6をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑫ソーシャルワークの専門職倫理Ⅰ(専門職倫理、倫理綱領、倫理的ジレンマ)			【予習】第5章ソーシャルワークの倫理を読む 【復習】第5章ソーシャルワークの倫理をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑬事例検討(多問題家族への支援)			【予習】事前の配布資料を読む 【復習】配布資料をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑭事例検討(独居高齢者への支援)			【予習】事前の配布資料を読む 【復習】配布資料をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑮事例問題(児童虐待への支援)			【予習】事前の配布資料を読む 【復習】配布資料をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
k			使用テキスト: 新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック4ソーシャルワークの基盤と専門職、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-23-09049-5			
			その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ソーシャルワークの基盤と専門職はソーシャルワークの倫理や価値等の専門職としての基盤を学びます。学びを深めるため予習・復習を行ってください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ			担当教員 氏名: 中村 尚紀						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	1年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		マイクロ、メゾ、マクロレベルのソーシャルワークの展開を理解した上で事例等を用いて各レベルごとのソーシャルワークの特徴等について検討する。							
授業科目の学習教育目標の概要:			キーワード						
ソーシャルワークの価値やチームアプローチを基礎にマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開を学ぶ。			マイクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク 多職種連携 ジェネラリスト・ソーシャルワーク						
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力		各領域のソーシャルワーカーの役割等を理解する							
B 専門的技術		クライアントを多角的に支援するための多職種連携の基本的技術を身につける							
C 論理的思考力		マイクロ、メゾ、マクロレベルごとにクライアントシステムを階層的に理解する							
D 問題解決力		事例等から多職種連携の力を使ったクライアントの問題解決の力を身につける							
G 倫理観		ソーシャルワークの根底にある専門職倫理を常に意識し実践力を身につける							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてディスカッション、ディベート、グループワーク・プレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは毎回提示、中間レポートは第7回目、期末レポートは別に定めた日時に実施。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートと中間・期末レポートはABCD評価で採点し返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①ソーシャルワーク専門職の概念と範囲				【予習】第6章ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の1、2を読む 【復習】第6章ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の1、2をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
②社会福祉士の職域(行政、福祉、医療、教育、司法、独立型事務所等)				【予習】第6章ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の3を読む 【復習】第6章ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の3をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
③福祉行財政などにおける専門職(福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事等)				【予習】第6章ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の3を読む 【復習】第6章ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の3をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
④民間の施設・組織における専門職(社会福祉協議会、高齢者関連施設、障害者・児関連施設、児童関連施設、地域包括支援センター、病院等)				【予習】第6章ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の4を読む 【復習】第6章ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲の4をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑤諸外国の動向(欧米等の動向)				【予習】第7章諸外国におけるソーシャルワークの動向を読む 【復習】第7章諸外国におけるソーシャルワークの動向をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑥マイクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク(対象、介入方法等)				【予習】第8章マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを読む 【復習】第8章マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークをレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑦ジェネラリスト・ソーシャルワークⅠ(定義、歴史的背景)				【予習】第9章総合的かつ包括的な支援の意義と内容の1を読む 【復習】第9章総合的かつ包括的な支援の意義と内容の1をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑧ジェネラリスト・ソーシャルワークⅡ(展開方法、社会資源の活用方法)				【予習】第9章総合的かつ包括的な支援の意義と内容の2、3を読む 【復習】第9章総合的かつ包括的な支援の意義と内容の2、3をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑨ソーシャルサポート・ネットワーク(定義、展開方法)				【予習】第9章総合的かつ包括的な支援の意義と内容の4を読む 【復習】第9章総合的かつ包括的な支援の意義と内容の4をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑩多職種連携の意義Ⅰ(多職種連携の定義等)				【予習】第10章多職種連携とチームワークの意義と内容の1を読む 【復習】第10章多職種連携とチームワークの意義と内容の1をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑪多職種連携の意義Ⅱ(多職種連携の方法、チームアプローチの種類)				【予習】第10章多職種連携とチームワークの意義と内容の2、3を読む 【復習】第10章多職種連携とチームワークの意義と内容の2、3をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑫事例分析(8050問題)				【予習】事前の配布資料を読む 【復習】配布資料をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑬事例分析(生活困窮者)				【予習】事前の配布資料を読む 【復習】配布資料をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑭事例分析(虐待)				【予習】事前の配布資料を読む 【復習】配布資料をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
⑮事例分析(終末期患者)				【予習】事前の配布資料を読む 【復習】配布資料をレポートでまとめる	【予習】120分 【復習】120分				
使用テキスト: 新・MINERVA社会福祉士養成テキストブック4ソーシャルワークの基盤と専門職(ミネルヴァ書房)ISBN978-4-623-09049-5				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 様々な領域で働くソーシャルワーカーの理解等を深めていきます。予習と復習を行い深い学びができるようにしてください。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 高齢者福祉			担当教員 氏名: 松尾祐子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			介護支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士・認知症専門棟相談員の実務経験を活かして、高齢者支援の実際や専門職との連携について教える内容を含める。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
高齢者の生活を取り巻く社会環境や高齢者福祉の歴史や制度を理解する。また高齢期の生活課題を踏まえて、社会福祉士としての支援のあり方を理解する。					高齢者の特性、社会環境、高齢者福祉の歴史、法制度、介護保険制度、支援	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			高齢者を取り巻く社会環境や福祉の歴史、法制度を理解する。			
B 専門的技術			高齢者支援に関連する機関や専門職の役割を理解する。			
C 論理的思考力			高齢者に対する法制度の現状を理解し課題を考えることができる。			
D 問題解決力			高齢者の生活課題を踏まえ解決策を考えることができる。			
G 倫理観			高齢者とその家族の支援に必要な倫理を理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %		レポート: 30 %		発表: %	実技試験: %	その他: %
特記事項: その他として、授業に対する参加度や態度、毎回の感想(出席カード)を含む。アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 期末テストを行う。(レポートの場合あり) 毎回授業の感想						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントをつけて返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション、高齢者の定義と特性			【予習】第1章を読む 【復習】第1章のまとめ		【予習】120分 【復習】120分	
②高齢者の生活実態			【予習】第2章を読む 【復習】生活実態をまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
③高齢者を取り巻く社会環境			【予習】第2章を読む 【復習】社会環境をまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
④高齢福祉の理念			【予習】2章を読む 【復習】戦前の高齢者福祉		【予習】120分 【復習】120分	
⑤高齢者観の変遷			【予習】2章を読む 【復習】戦後の高齢者福祉		【予習】120分 【復習】120分	
⑥高齢者福祉制度の発展過程			【予習】2章を読む 【復習】歴史をまとめる		【予習】120分 【復習】120分	
⑦介護保険法			【予習】4章を読む 【復習】老人福祉法		【予習】120分 【復習】120分	
⑧介護保険制度のサービス			【予習】5章を読む 【復習】介護保険法		【予習】120分 【復習】120分	
⑨老人福祉法			【予習】5章を読む 【復習】介護保険サービス		【予習】120分 【復習】120分	
⑩高齢者の医療の確保に関する法律			【予習】5章を読む 【復習】介護保険サービス		【予習】120分 【復習】120分	
⑪高齢者虐待防止法			【予習】3章を読む 【復習】生活ニーズ		【予習】120分 【復習】120分	
⑫バリアフリー法、高齢者住まい法など			【予習】3章を読む 【復習】介護の概念		【予習】120分 【復習】120分	
⑬高齢者支援における関係機関と専門職			【予習】9章を読む 【復習】介護技法		【予習】120分 【復習】120分	
⑭関連する専門職の連携			【予習】9章を読む 【復習】介護予防		【予習】120分 【復習】120分	
⑮高齢者と家族等に関する支援の実際			【予習】介護についてまとめる		【予習】120分	
使用テキスト: 最新・社会福祉士養成講座専門科目②『高齢者福祉』中央法規 みんないきいき介護保険(社会保険出版社)			その他参考文献など: 『高齢社会白書』内閣府			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布するプリントは整理しておいてください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: 障害者福祉			担当教員 氏名: 門田 晋		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。					自立生活 empowerment 自立支援制度
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力	利用者支援のための理論と知識を総合的に理解することができる。				
B 専門的技術	利用者をアセスメントする視点等を身につけることができる				
C 論理的思考力	疾病、障害から生活レベルを想定することで支援の論理性を培うことができる				
D 問題解決力	新しい理念などを知識として活用し、問題解決に至る力を身につけることができる				
G 倫理観	差別や偏見について考えることで自己の人格的成長を図ることができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: その他とは、授業出席、態度のことである。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスをを行う。					
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)			
		学習内容	学習に必要な時間(分)		
①障害の概念と障害者の実態		【事前】第1章障害概念と特性を読む 【事後】第1章障害概念と特性を読む	【予習】120分 【復習】120分		
②障害の概念と障害者の実態 ICIDHとICF		【事前】第1章障害概念と特性を読む 【事後】第1章障害概念と特性を読む	【予習】120分 【復習】120分		
③障害者福祉の基本理念① ノーマライゼーション、リハビリテーション		【事前】第2章障害者福祉の理念を読む 【事後】第2章障害者福祉の理念をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
④障害者福祉の基本理念② エンパワメント、インクルージョン		【事前】第2章障害者福祉の理念を読む 【事後】第2章障害者福祉の理念をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑤障害者の法制度1 障害者権利条約と障害者基本法		【事前】第3章障害者の法制度を読む 【事後】第3章障害者の法制度をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑥障害者施策の発展と歴史 身体、知的、精神、発達障害等の各法		【事前】第4章障害者の法制度を読む 【事後】第4章障害者の法制度をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑦障害者福祉のサービス体系 障害者総合支援法 概説		【事前】第5章障害者に対する法制度を読む 【事後】第5章障害者に対する法制度をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑧障害者福祉のサービス体系 障害者総合支援法 実践、運用		【事前】第5章障害者に対する法制度を読む 【事後】第5章障害者に対する法制度をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑨ユニバーサルデザインとバリアフリー(バリアフリー法)		【事前】第5章障害者に対する法制度を読む 【事後】第5章障害者に対する法制度をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑩自立生活と生活ニーズ		【事前】第4章障害者の生活実態等を読む 【事後】第4章障害者の生活実態等をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑪障害者の社会参加1 ～障がい者スポーツの世界～		【事前】第4章障害者の生活実態等を読む 【事後】第4章障害者の生活実態等をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑫障害者の社会参加2 ～就労支援、法制度～		【事前】第4章障害者の生活実態等を読む 【事後】第4章障害者の生活実態等をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑬差別と偏見 (障害者差別解消法と障害者虐待防止法)		【事前】第5章障害者に対する法制度を読む 【事後】第5章障害者に対する法制度をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑭障害者と家族等に対する支援の実際(他職種との連携、関連サービスの理解)		【事前】第6章と7章を読む 【事後】第6章と7章をノートにまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑮まとめ		【事前】テキスト全体、資料の確認 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座8障害者福祉(中央法規)ISBN978-4-8058-8238-2			その他参考文献など: 「国民の福祉と介護の動向」厚生労働省		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・配布する資料等を紛失しないよう注意してください。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 児童・家庭福祉			担当教員 氏名: 清水 雄一			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			テキストだけで理解が不十分な部分の説明として、対人的なものなど具体的実践の中での事例を取り上げるにより、理解が促進される。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
①児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について理解する。 ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。 ④児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割について理解する。 ⑤児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方を理解する。					児童福祉 権利 相談	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7	
A 知識・理解力	児童福祉分野における総合的な知識力を高めることができる。					
B 専門的技術	相談援助に必要な情報や技術を身につけることができる。					
C 論理的思考力	児童相談援助のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる。					
D 問題解決力	事例を検討することで問題解決能力を高めることができる。					
G 倫理観	児童の権利擁護について考えることで自己の人格的成長を図ることができる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 10 %	レポート: 45 %	発表: %	実技試験: %	その他: 45 %		
特記事項: 上記の「その他」においては、授業中の態度、演習での発言、発表等で評価する。 ・本科目ではアクティブラーニングの一環として、グループワーク(事例検討等)を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の終わりに、疑問点や勉強になったこと、面白いと感じたことなど所感をミニレポートにまとめて提出とする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントを付けて学生にフィードバックする。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション、児童・家庭福祉の基本的な視点、考え方			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
②児童・家庭の定義と権利			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
③児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境(生活実態、子育て、住居、経済、教育等)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
④児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境(いじめ、虐待、DV、社会的養護等)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑤児童・家庭福祉の歴史(理念、児童理念の変遷、制度の発展過程等)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑥児童・家庭に対する法制度(児童相談所、児童福祉施設の種類、単親制度、専門職の役割)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑦児童・家庭に対する法制度(障害児支援、児童福祉制度に係る財源、最近の動向等)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑧児童・家庭に対する法制度(事例検討、児童虐待の防止等に関する法律)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑨児童・家庭に対する法制度(事例検討、DVの防止及び被害者の保護に関する法律)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑩児童・家庭に対する法制度(母子及び父子並びに寡婦福祉法)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑪児童・家庭に対する法制度(母子保健法、児童手当各法)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑫児童・家庭に対する法制度(売春防止法、子育て支援法、貧困対策の法律等)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑬児童・家庭に対する支援における関係機関と専門職の役割(自治体、各種センター等)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑭児童・家庭に対する支援の実際(事例検討)			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ			【予習・復習】テキストを読む		【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: ③児童・家庭福祉 中央法規 978-4-8058-8246-7			その他参考文献など: 自分なりに福祉施設等での実践経験を基にまとめたものを、レジュメとして最初にお渡ししたいと思います。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 学んだことでも、対人的な具体的実践の中では、どうしてよいか分からずに途方に暮れるということもある。将来、現場に出た際に、できるだけ不要な失敗を避け、より適切な取捨選択ができるよう手助けになればありがたい。とにかく、気軽に質問していただき、納得いくまで対話できたら嬉しい。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: ソーシャルワーク演習 I			担当教員 氏名: 門田 晋		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)
実務経験を用いてどのソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法をよな授業を行っている。体験的に学ぶ授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
他の科目との関連性を踏まえ、ソーシャルワーカーに求められる基礎的な能力とコミュニケーション能力を養う。また、価値規範と倫理を実践的に学び、ソーシャルワークの展開過程に用いられる知識と技術を理解する。					ソーシャルワークの価値規範・倫理、コミュニケーション技術、自己覚知、面接技術、ソーシャルワークの展開過程
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力	ソーシャルワークに必要な知識と技術を理解する。				
C 論理的思考力	当事者が直面する問題を複眼的論理的に分析できる。				
E 自己管理能力	常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。				
G 倫理観	ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できる。				
H コミュニケーション力	ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 40 %	発表: 50 %	実技試験:	% その他: 10 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
②自己覚知(自己理解)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
③他者理解			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
④基本的なコミュニケーション技術(言語的技術)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑤基本的なコミュニケーション技術(非言語的技術)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑥基本的な面談技術(1)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑦基本的な面談技術(2)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑧ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見・インテーク)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑨ソーシャルワークの展開過程(アセスメント)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑩ソーシャルワークの展開過程(プランニング)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑪ソーシャルワークの展開過程(モニタリング・アフターケア)			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑫ソーシャルワークの記録			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑬グループダイナミックスの活用			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑭プレゼンテーション技術			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
⑮授業のまとめと振り返り			【予習・復習】レポート作成	【予習】120分	【復習】120分
使用テキスト: ⑬ソーシャルワーク演習 中央法規 978-4-8058-8243-6 福祉小六法 978-4-8058-3925-6 現代社会福祉用語の基礎知識 978-4-7620-2174-9			その他参考文献など: 川村隆彦著「価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク」中央法規		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。					

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: ソーシャルワーク実習指導 I			担当教員 氏名: 中村 尚紀 松尾 祐子 鷹西 恒			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士国家試験基礎受験資格(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士、ケアマネージャー等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かした授業を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
ソーシャルワーク実習の意義について理解する。社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。					ソーシャルワーク 専門職 実習へ向けての心構え	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10		
A 知識・理解力	実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。					
B 専門的技術	実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。					
E 自己管理能力	実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。					
G 倫理観	実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。					
H コミュニケーション力	利用者や実習指導者等と適切なコミュニケーションを実践できる。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 60 %	発表: 20 %	実技試験:	%	その他: 20 %
特記事項: その他とは、授業規範の遵守、態度、姿勢のことである。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ⑦～⑩、⑮にレポートによる評価がある。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けてレポートを返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション(現場実習・実習指導の位置づけ)【中村、松尾、鷹西】				【事前】序章の講義・演習・実習の循環の1、2を読む 【事後】序章の講義・演習・実習の循環の1、2をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
②実習の目的や動機の萌芽(グループワーク)【中村】				【事前】序章の講義・演習・実習の循環の3、4を読む 【事後】序章の講義・演習・実習の循環の3、4をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
③実習施設・機関の例・概要 I (高齢者施設)【松尾】				【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
④実習施設・機関の例・概要 II (障害者施設、児童福祉施設)【鷹西】				【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑤実習施設・機関の例・概要 III (社会福祉協議会、福祉事務所)【中村】				【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑥実習施設・機関の例・概要 IV (病院、地域包括支援センター等)【中村】				【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑦ソーシャルワーク実習施設の理解(グループワーク)【中村】				【事前】第3章の実習先決定後の準備をノートにまとめる 【事後】第3章の実習先決定後の準備をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑧高齢者福祉分野における現場実践 I (招聘講師)				【事前】高齢者福祉分野における現場実践の当該資料を読む 【事後】高齢者福祉分野における現場実践をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑨障害者福祉分野における現場実践 II (招聘講師)				【事前】障害者福祉分野における現場実践の当該資料を読む 【事後】障害者福祉分野における現場実践をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑩児童福祉分野における現場実践 III (招聘講師)				【事前】児童福祉分野における現場実践の当該資料を読む 【事後】児童福祉分野における現場実践をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑪社会福祉協議会における現場実践 IV (招聘講師)				【事前】社会福祉協議会における現場実践の当該資料を読む 【事後】社会福祉協議会における現場実践をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑫実習の意義、目的の理解(グループワーク)【中村】				【事前】第1章のソーシャルワーク実習の目的と構造を読む 【事後】第1章のソーシャルワーク実習の目的と構造をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑬実習で必要とされる価値規範と倫理、知識及び技術に関する理解【中村】				【事前】第1章のソーシャルワーク実習の目的と構造を読む 【事後】第1章のソーシャルワーク実習の目的と構造をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑭実習配属施設、事業所等の概要説明、配属のための面談【中村、松尾、鷹西】				【事前】第3章の実習先決定後の準備をノートにまとめる 【事後】第3章の実習先決定後の準備をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分	
⑮ソーシャルワーク実習施設見学の概要説明、配属のための面談等【中村、松尾、鷹西】				【事前・事後】授業で学んだことを復習し、まとめる	【予習】60分 【復習】60分	
※夏期休業中に契約施設、機関、事業所2カ所の見学を行うものとする						
使用テキスト 最新社会福祉士養成講座8ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習 (中央法規)ISBN:978-4-8058-8251-1 ソーシャルワーク実習指導要綱、その他適宜資料を配布する。				その他参考文献など: 社会福祉士受験資格科目のテキスト 福祉小六法 現代社会福祉用語の基礎知識		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 原則として全授業に出席すること。レポート等の締め切りを守って提出をしなければ、本単位は認定されない。十分な覚悟の上履修してほしい。なお、ソーシャルワーク実習 I、IIについては、授業成績が一定以上の者に限って認めるものである。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻						
科目名: 生活支援技術				担当教員 氏名: 松原 良子、松尾 祐子、毛利 亘、 土田 竜太、寺岡 栄一					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 介護支援専門員・介護福祉士・社会福祉士の実務経験を活かして、高齢者や障害者の介護について教える内容を授業に含めている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
高齢者及び障害者の生活を支える生活支援技術の基礎知識を学ぶ。利用者の個性を考えた援助、根拠に基づく自立に向けた実践的な技術を学びます。					生活の質、在宅介護、施設介護、ICF、福祉用具、移動、食事、排泄、ボディメカズム				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			生活支援に必要な知識と技術を習得する。						
B 専門的技術			生活支援に必要な技術を理解する。						
C 論理的思考力			根拠に基づいた安全・安楽な方法を理解する。						
H コミュニケーション力			介護の場面における適切なコミュニケーション力を身につける。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	%	実技試験:	30 %	その他:	%
特記事項: 実技の時は動きやすい服装 アクティブラーニングの一環として、グループワークや発表を行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 中間レポートと期末レポート、実技テスト									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートにコメントをつけて返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①【松尾】オリエンテーション 介護とは				介護について	復習120分				
②【松原】在宅介護の基本				在宅福祉	復習120分				
③【松原】在宅介護の基本				在宅福祉	復習120分				
④【松原】施設介護の基本				施設介護	復習120分				
⑤【松原】施設介護の基本				施設介護	復習120分				
⑥【毛利】ICFの視点に基づいた介護				ICFの視点	復習120分				
⑦【毛利】自立に向けた居住環境の整備、福祉用具の意義と活用				居住環境、福祉用具	復習120分				
⑧【土田】自立に向けた移動の介護				移動の介護	復習120分				
⑨【土田】自立に向けた身じたくの介護				身じたくの介護	復習120分				
⑩【土田】自立に向けた食事介護				食事介護	復習120分				
⑪【土田】自立に向けた入浴・清潔保持の介護				着脱介護	復習120分				
⑫【土田】自立に向けた排泄介護				排泄介護	復習120分				
⑬【土田】休息・睡眠の介護、人生の最終段階の介護				休息・睡眠の介護	復習120分				
⑭【寺岡】障害をもつ人の介護				障害の理解	復習120分				
⑮【寺岡】障害をもつ人の介護				障害の理解	復習120分				
使用テキスト: なし 適時プリント配布				その他参考文献など: 『ケアの本質-いきることの意味』 ミルトン・メイヤロフ ゆるみ出版					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 心理学研究法			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
心理学で用いられている自然科学的研究法について学び、自らの問題意識に基づいて、仮説を立て、研究をデザインするための基礎的知識を習得する。						仮説、実験、調査、サンプリング、バイアス、信頼性と妥当性
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6.	
A 知識・理解力			心理学に関する基礎的知識を身に付ける。			
C 論理的思考力			人間の行動や心理について、科学的・客観的に理解するための専門的技術の基礎を身に付ける。			
D 問題解決力			問題に対して仮説を立て、情報を収集・分析するために必要な方法論を習得する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: レポート(30%)、期末試験(50%)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と終了時にフィードバックを行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①リサーチクエスションと仮説				リサーチクエスションを立てる。	30	
②実験的方法と非実験的方法				研究テーマについて情報収集する。	60	
③研究デザイン				研究の大意を考える。	60	
④サンプリング法				仮説を立てる。	60	
⑤実験のバイアス				サンプルとサンプリングを考える。	60	
⑥信頼性と妥当性				研究デザインを考える。	60	
⑦実験の統制				研究デザインを洗練させる。	60	
⑧文化的バイアスと研究倫理				レポートを提出する。	60	
⑨記述統計				図表の作り方について調べてまとめる。	60	
⑩尺度				尺度について調べてまとめる。	60	
⑪推測統計の種類				記述統計と推測統計の違いについて調べる。	60	
⑫いろいろな検定法と検定結果の解釈				興味のある心理系論文を入手して読む。	60	
⑬質的データの扱い方				興味のある心理系論文を入手して読む。	60	
⑭研究レポートの書き方				興味のある心理系論文を入手して読む。	60	
⑮まとめ: 心理学研究のデザイン				総復習をする。	120	
使用テキスト: 心理学研究法入門、アン・サール(著)、宮本聡介・渡邊真由美(訳)、新曜社、ISBN978-4-7885-0943-6				その他参考文献など: 高野陽太郎(著)心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし[有斐閣アルマ]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理学研究法を習得するためには、自らの問題意識に基づいて、研究をデザインしてみることが最も効果的であり、議論への積極的な参加・発言を求めます。アクティブ・ラーニングで学びます。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 心理学統計法			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門科目	講義	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
心の諸問題について収集されたデータを分析・解釈し、意味づけるための統計学的技術を習得する。					t検定、分散分析、相関分析、因子分析、 χ^2 分析	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 9.	
A 知識・理解力			心理学統計法における基礎知識を理解している。			
B 専門的技術			利用者の生活ニーズをアセスメントするための情報分析技術を身に付けている。			
C 論理的思考力			人間の行動や心理について論理的に思考する力を身に付けている。			
D 問題解決力			問題解決のために収集された情報を分析・解釈できる。			
H コミュニケーション力			情報を的確にまとめ、わかりやすく説明できる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 与えられたデータを実際に統計処理しながら、スキルを身につけるアクティブラーニングで学びます。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と終了時に学習到達度を個別にフィードバックし、必要のある学生に対しては補習を行う。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①尺度と代表値の理解と仮説検定の考え方			代表値と仮説検定についてまとめる	30		
②エクセルの基本とデータ入力の基本			データ入力方法の練習	120		
③平均値と標準偏差の算出方法とグラフの作図			代表値の算出と作図の練習	120		
④t検定の考え方			t検定についてまとめる	120		
⑤対応のないt検定の手順			対応のないt検定の練習	120		
⑥対応のあるt検定の手順			対応のあるt検定の練習	120		
⑦一要因被験者間分散分析の手順			被験者間分散分析の練習	120		
⑧一要因被験者内分散分析の手順			被験者内分散分析の練習	120		
⑨平均値の差の検定のまとめ			第1回～第8回までの総復習	180		
⑩二要因分散分析および交互作用の考え方			二要因分散分析についてまとめる	120		
⑪相関分析の考え方と手順			相関分析の練習	120		
⑫重回帰分析および因子分析の考え方			重回帰分析・因子分析をまとめる	120		
⑬クロス集計表の理解と作成			クロス集計表の練習	120		
⑭ χ^2 乗検定の考え方と手順			χ^2 乗検定の練習	120		
⑮相関および名義尺度データについての分析のまとめ			第9回～第14回までの総復習	180		
使用テキスト: ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで—、田中敏・山際勇一郎(著)、教育出版株式会社、ISBN978-4-316-32901-7			その他参考文献など: 村井潤一郎・柏木恵子(著)ウォームアップ心理統計[東京大学出版会]; 丸山欣哉・佐々木隆之・大橋智樹(著)学生のための心理統計法要点[おうふう]			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 統計学を学ぶには、実際にデータを自ら分析・処理してみる以外の近道はありません。自分でデータ分析を行なうアクティブラーニングで学びます。事後学習での練習が大切です。						